

一般質問(要旨)



議員 山野井 浩
いばらき自民党
つくばみらい市選出
一括方式

本県の畑作物の生産振興

議員 条件が良い畑にもかかわらず放置され、農地が十分に活用されていない地区もある。高い収益を期待できる品目の導入を、一層推進していくべきではないか。
農林水産部長 近年の需要見込みと、周年出荷による安定収益などにより、かんしよの生産拡大に取り組むこととし、茨城かんしよトップランナー産地拡大事業を創設した。来年度は一層の生産拡大に取り組むとともに、かんしよに続く重点品目を検討していく。



議員 長谷川 重幸
いばらき自民党
鉾田市・茨城町・大洗町選出
一括方式

アクアワールド茨城県大洗水族館の魅力向上策

議員 アクアワールドのさらなる魅力向上を図るため、どのような思いでジンベエザメの導入を決めたのか、また今後、渋滞対策にどう取り組んでいくのか。
知事 サメの飼育種類数日本一という強みを強化するため、ジンベエザメの展示を決定した。渋滞対策として、駐車場の確保や交通対策を進める。また、広域的な道路ネットワークの強化や公共交通サービスの充実について関係者が一体となって検討していく。

国道二九四号の渋滞緩和

議員 国道二九四号の渋滞緩和に向けた、都市計画道路玉台橋・西橋戸線および(仮称)つくばみらいスマートICと県道常総取手線の整備の見直しは。
土木部長 都市計画道路玉台橋・西橋戸線は、四車線整備や右折車線の二レーン化などを検討している。市およびネクスコ東日本によるスマートICの整備と併せて、県道常総取手線の整備を推進していく。

(ほかに、障害者支援、港湾の利活用推進にかかる防災・減災対応なども質問)



収益性が期待できる作物の振興を

水鳥・湿地センター整備に伴う酒沼の利活用の推進

議員 センターの整備に伴い、地域と一体となった酒沼の豊かな自然環境の保全と利活用を推進するため、どう取り組んでいくのか。また、整備の進捗状況は。
県民生活環境部長 センターの整備により、酒沼の魅力を県内外に発信できる。地元市町や関係機関と連携し、環境学習会の実施など、ワイズユース[※]を推進していく。

国によれば、早ければ令和三年度に建設工事を開始する見通し。(ほかに、施設園芸農家の支援、キャリア教育の推進なども質問)



ダイナミックなイルカショー(アクアワールド茨城県大洗水族館)



議員 江尻 加那
日本共産党
水戸市・城里町選出
一括方式

認可外保育施設の重大事故防止と改善策

議員 乳幼児二人の死亡事故が起きた水戸市内の認可外保育施設は、県が立入調査をしていたが、国の基準を満たしていなかった。県は死亡事故の事実や施設の基準違反を、なぜ公表しなかったのか。再発防止策を行う考えはあるのか。
知事 今後は、「重大事故の再発防止のための事後的検証委員会」からの提言を踏まえ、原則として事故の概要や立入調査結果を公表していく。また、巡回指導を拡充するなど、指導監督を徹底していく。



議員 沼田 和利
いばらき自民党
牛久市選出
一括方式

県立高校の校則の見直し

議員 生徒の多様性を踏まえ、個々の実情に対応した校則や生徒の健全な育成と発達に資する校則が必要だと考えるが、県立高校の校則の見直しをどう推進するのか。
教育長 学校を取り巻く環境は毎年変化しており、校則も、生徒や保護者の価値観の多様化に応じた見直しが必要と考える。各県立高校には、生徒総会やPTA総会などの機会に、生徒や保護者の意見を聞くなどし、今夏を目途に校則の見直しを図るよう指導する。

東海第二原発の再稼働問題

議員 原発の安全性検証をどう進めるのか。また、避難計画の課題は解決できるのか。廃炉が現実的選択ではないか。県民の声を聞くべきとの世論に、どう応えるのか。
知事 安全性検討ワーキングチームで検証をし、二月からは県民意見を踏まえた検証を開始した。避難計画の課題は、国や市町村、関係機関と共有し解決に取り組んでいる。安全性検証、避難計画策定の上、情報提供し県民意見を聞いていく。

(ほかに感染症対策、特別支援学校の環境整備なども質問)



安全性検討ワーキングチームでの検証の様子

消防職員の教育訓練の充実強化

議員 高層建築物で災害が発生したことを想定した消防職員の教育訓練の充実強化は重要と考えるが、今後どう取り組むのか。
防災・危機管理部長 消防学校での高層建築物の火災を想定した訓練に加え、実際の火災現場を疑似体験できる装置を活用した実践的かつ高度な訓練に取り組み、消防職員の教育訓練の充実強化を図る。

(ほかに、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会、つくばへリポートの今後の在り方なども質問)



消防職員の訓練の様子

魅力向上に関する調査特別委員会を設置しました

本県を取り巻く環境は、急激な人口減少や社会経済のグローバル化、情報通信技術の劇的な進歩など、変化のスピードがますます加速しています。そうした中、魅力いっぱい「新しい茨城県」を目指し、希望にあふれた誇りある郷土茨城を創り上げ、次の世代に引き継いでいくことが求められています。

本県は、豊かな自然や暮らしやすい気候風土、特色ある歴史・文化、世界最先端の科学技術や高度なものづくり産業の集積に加え、全国トップクラスの産出額を誇る農業や整備が進む広域交通ネットワークなどを有しています。

一方、民間会社による調査では、本県の魅力が十分に認識されていないことから、国内外の方々にも茨城に住みたい、訪れたいと考えてもらうためにも、本県が持つ特色ある地域資源に一層磨きをかけ、県民が愛着と誇りを持つことのできる、魅力ある郷土づくりを推進していくことが不可欠です。

議会においても、多様な角度から横断的・集中的に審議し、県の魅力向上について適切に提言を行うことが重要です。

そこで、「県の魅力向上に関する諸方策の在り方」について調査するため、「魅力向上に関する調査特別委員会」を三月二十四日の本会議において設置しました。委員の構成は十五名で、次のとおりです。

委員長	川津 隆	委員	山野井 浩
副委員長	星田 弘司		坂本 隆司
委員	西條 昌良		二川 英俊
	飯塚 秋男		八島 功男
	細谷 典幸		白井 平八郎
	中村 修		玉造 順一
	田口 伸一		豊田 順一
	金子 晃久		茂

※【ワイズユース】…ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に記載された考え方で、湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる「恵み」を持続的に活用すること。